

# あのね、

福井市四ツ井 2-8-1  
TEL 0776-53-6570  
FAX 0776-53-6576  
http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kodomo-ryouiku/



## 姿勢保持装置体験会報告

当センター理学療法部門では、毎年11月に姿勢保持装置の体験会を開いています。今年も合計9社にご協力いただき11/10～11日の2日間にわたって開催しました。理学療法室狭しと、沢山の車椅子やバギー、カーシート、シャワーチェアなどが展示され、実際に使ってみることができました。

今年はリフターやコミュニケーション機器などもお目見えし、例年にも増して盛況だったと感じています。

道具は使われてこそその道具です。福祉機器は子どもたちの体の一部になるものです。実際に目で見て触れてデザインやカラーも含めて確かめて、使いたくなるものを選ぶよう、私達理学療法士もお手伝いしたいと思っています。



## 医療課 栄養・調理部門のご紹介

当センターには管理栄養士が1名、調理師が3名配置されています。管理栄養士は、主に入所児・通所児(者)の栄養管理、給食管理を行っています。また、調理師は給食管理の給食を担当しています。

栄養管理では、入所児・通所児(者)の保護者からの栄養相談や、外来での栄養指導も行っています。

給食管理については、当センターは併設する福井県立病院で調理を行っています。調理システムとして、クックチルとIH加熱カートを組み合わせたニュークックチル方式を採用しています。クックチルで作られた料理や食材を低温のまま食器に盛りつけ、IH加熱カートで再加熱する方式です。温かい料理は温かく、冷たい料理は冷たい状態で提供することができます。提供している食事の種類は離乳食・小児すり菜食・小児五分菜食・小児常食など小児食全般で、近年は地場産食材の使用や、手作りおやつに力を入れています。



福井県産  
カレイの煮魚



福井県産食材を使った手作りおやつ  
左から「さつまいもの蒸しパン」「キャロットゼリー」「スイートポテト」



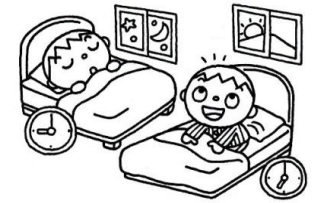
## 子育て **ぷち** 講座

♡ 生活リズムを整えましょう ♡

生活リズムは大人が意識して整えていくものです。まずは、前夜の就寝が遅かった日も、朝、一定の時刻に起こすことを続けます。昼寝は、寝ただけ寝させるのではなく、夜の睡眠時刻に合わせて時間を調節します。また、15時以降に昼寝が続いていると夜の就寝に影響が出るので避けましょう。そして、食事やおやつ時刻も一定に。

生活リズムが整うと、なんといっても、お子さんが力を発揮しやすい！学びやすい！です。ポイントは続けること。上手いからとあきらめずに、まずは1週間。…1か月続けると、きっとお子さんに変化が現れますよ。

ただ、大人の意識だけでは、睡眠などのリズムが整にくいお子さんもいらっしゃると思います。そんな時は、担当医師に相談してみてくださいね。



## 平成28年度 療育研修会報告

☆第2回 「摂食・嚥下障害児(者)の食事を楽しむとはどういうことか」 平成28年7月9日(土)

講師：田角 勝 先生 (昭和大学医学部小児科教授)

午前は講義と保護者の方から事前に質問を聞いておきそれに対して先生がお答えしてくれる形式をとったので、ひとつひとつ丁寧に答えをいただきました。午後は療育関係者向けに症例のビデオを観ながら分かりやすく説明していただきました。「障害児と普通の子供でも考え方はそんなに変わらないということを知った」「摂食について今までは、とても重く感じていたが、お話を聞いて肩の力が抜けた」等の感想をいただき、今回食事を楽しく食べることに再認識することができました。

(通園指導課 吉田)

☆第3回 「自閉スペクトラム症とコミュニケーション支援について」 平成28年9月11日(日)

講師：門 眞一郎 先生 (京都市児童福祉センター 副院長)

午前は理解コミュニケーションの支援について、自閉スペクトラム症の特性や、自閉スペクトラム症であるにかかわらず、視覚的支援の重要性をわかりやすくお話しいただきました。午後は表出コミュニケーションの支援について、実際の場面を動画で取り入れ、視覚的にPECS(絵カード交換式コミュニケーション)の方法や効果を教えていただきました。「視覚的に伝える事の重要性をより理解する事ができた」「明日からの関わりに活かしていきたい」等の感想をいただき、今後の療育・保育に繋がる研修会となりました。

(医療課 小原)

☆第4回 「考えよう 障害のある子の“きょうだい”のこと」 平成28年11月19日(土)

講師：苛原 香 先生 (大阪大学大学院医学系研究科小児科学)

障害のある子どものきょうだいの気持ちや成長していく過程で生じる悩みなどをわかりやすく説明していただきました。また、DVDの映像では、きょうだいのいろんな葛藤を乗り越え自立している様子が紹介されました。保護者の方から「親は障害を持つ本人ばかりに目をかけがちで、分け隔てなく育てる難しさを感じるが、きょうだいにも条件付きでない愛情をかけたい。」療育関係者の意見では、「きょうだいの目線にも気を配り、支援できればいい。」など沢山の感想をいただきました。

(入所療育課 岩井)